

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

673-804

事務事業名	伊那谷文化史資料調査研究保管事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館		包含する細々目	1	10	5	6	11	3	3,398
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
施策	61 地域資源の発見											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要	関連計画条列等		・地域史研究事業			
		事業期間	1	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	伊那谷を中心とした人文分野	飯田下伊那地域の面積(平方メートル)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
				2262.6	2262.6		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
				2262.6	2262.6		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	収集された資料は、調べられた成果が公表される	年度内に調査された資料の数(点)	18目標	100	最終目標		
			18実績	130	19目標	100	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
			18目標	11970	最終目標		
18実績			11950	19目標	12000	↑	
23目標				23実績		最終目標達成年度	
	蓄積・登録された資料の総数(点)	18目標	11970	最終目標			
		18実績	11950	19目標	12000	↑	
		23目標		23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	本事業は飯田市美術博物館において、伊那谷の人文に関する資料および情報を継続的に収集、整理、保管、研究活動を行うものである。 この中には、地域の人文を研究対象としている研究者への支援と成果を発表する印刷物発行事業を含んでいる。	1, 調査研究 社寺調査・民俗調査・関連史料の調査。とくに三穂・遠山南部地域の民俗調査。 2, 資料の収集保管・整理。 3, 出版事業 『地域史研究事業民俗報告書2 三穂の民俗』の刊行。『旧飯田藩士柳田家日記「心覚」』(二)の刊行準備。『日本の博物館の父田中芳男』第3版増刷。 4, 写真・映像のデジタル化。DVD『飯田大火前後の飯田』作成。 5, 資料の修復『方便法身尊像』1幅。 6, 文献購入	18年度の実績	発行した刊行物の数(件) (DVD含む) 野外での調査回数(回)
		19年度計画	発行した刊行物の数(件) (DVD含む) 野外での調査回数(回)	4 100

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	3,398	3,398
	事業費計(A)	3,398	3,398
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,500	19年度 2,500
	臨時職員等所要時間	3,700	3,700
	人件費計(B)	12,918	12,918
	トータルコストA+B	16,316	16,316

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・見出される(調査研究し公表する。客観的な事実、意味や価値のあるなしを判断する)	見いだされた地域資源の数(累計)	現状値	1014	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	1100
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
美術博物館開館時において、本施設がたんなる展示・収蔵館に終わるのでなく、本来博物館が求められる調査研究とそれに基づく資料・情報の収集を行うべく、「100年後のあるべき姿」を見据えて開始された。	地域文化への関心が高まり、資料や情報の提供を求められる機会が増大している。また社会が激変する中で、地域の歴史文化資料が散逸する可能性が高まっている。とくに民俗伝承の調査は緊急性を要し、遠山地域との合併によりさらに重要となっている。	地域文化に関する問い合わせが増加。最近では、「飯田城ガイドブック」の刊行により、飯田城や城下町に対する関心が高まり、お練り祭り等の芸能、諸資料の所在地等に関する問い合わせが寄せられた。また、遠山地方との合併により遠山の文化財に関する問い合わせも増大した。

## 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)	
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		伊那谷の地域文化を対象としているため。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		歴史民俗文化に関する資料と情報が蓄積し、それらのもつ意義を明らかにして初めて多様な活用が可能となる。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		市が積極的に関与しないと資源の発見は進まない。地道な調査研究と資料の収集保管は、今の市民だけでなく将来の子孫に伝え遺す重要な営みであり、公的機関としての博物館が責任を持って担う以外に方法がない。	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)	
					本事業は、限られた学芸員と専門研究員の活動によっており、経費削減は事業成果の縮小につながってしまう。	
					ただし、歴史・民俗・文化の全般を対象とする本事業と、歴史(近世・近現代)・建築のみを特化する歴史研究所とは、資料の収集保管・調査研究・教育普及は重なる部分もあり、将来的に連携等の見直しが必要である。	
					市民、団体、自治体が受益者となる。直接負担は無し。	

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	9月開始の遠山北部地域の民俗調査は、近畿大学名誉教授野本寛一氏の指導に加えて、新たに外部研究者を数名加えて、より充実した報告書づくりを目指す。 また、学習院大学人文科学研究プロジェクト「中世社寺縁起絵の総合研究」へ参加し、20年度に報告書を出版する予定。これまでに館に蓄積した資料・情報については、再整理を本年度の目標に掲げて、活用化を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	調査ならびに資料の収集整理には多くの時間がかかるが、展覧会などの回数が増加しているために、基本的な整理が遅れがちである。伊那民俗学研究所などの研究団体や地域研究者との協働を図りながら進める必要がある。

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	